

第 15 回) 執筆した論文が日本排尿機能学会誌第 34 巻第 2 号「特別企画」に掲載されました。

理事の細川雄平と申します。職種は作業療法士です。

現在、兵庫県西宮市で理学療法士(以下、PT)、作業療法士(以下、OT)、言語聴覚士(以下、ST)を養成する平成リハビリテーション専門学校で教員をしております。

昨年 9 月に千葉で開催された[第 30 回日本排尿機能学会のシンポジウム LUTS7 ならびに JCS DEI, diversity セミナー](#)で登壇したことがきっかけで、学会より論文執筆の依頼があり、執筆した論文が日本排尿機能学会誌第 34 巻第 2 号「特別企画」に掲載されましたので報告させていただきます。

現在、平成医療福祉グループ(以下、HMW)に所属しており、2015 年 9 月に HMW に関連する療法士とともに排泄リハビリテーションチームを設立しました。

これまでに、HMW に所属し、排泄リハビリテーションに従事する療法士を対象に、マニュアルの作成、臨床サポート、排泄リハ研修会、研究計画、ポータルサイトの運営などに関わってきました。

排尿自立はリハビリテーションの根幹である人間性の回復につながるため、今後も積極的な排泄リハビリテーションを推進・展開していきたいと考えております。

これからは、排泄ケア領域における PT や OT の役割を明確化し、ST も参画することで人間の尊厳である「食べること」から「出すこと」までの総合的なケアが重要であると考えています。

我々の取り組みが会員の皆様の今後の取り組みの参考となり、療法士が行う排泄リハビリテーションについても知っていただくきっかけになれば幸いです。

学会員の方は、是非ご確認いただくと幸いです。

今後ともよろしく願いいたします。

NPO 快適な排尿をめざす全国ネットの会 理事

平成リハビリテーション専門学校 認定作業療法士 細川雄平

排泄リハビリテーションチームを発足して8年  
— 積極的な排尿リハビリテーションの臨床的効果と今後の展望 —

<sup>1)</sup>社会福祉法人 関西中央福祉会 <sup>2)</sup>平成リハビリテーション専門学校  
<sup>3)</sup>医療法人 山口平成会 <sup>4)</sup>山口平成病院 <sup>5)</sup>医療法人 平成博愛会 <sup>6)</sup>印西総合病院  
<sup>7)</sup>医療法人社団 大和会 <sup>8)</sup>多摩川病院 <sup>9)</sup>医療法人社団 西宮回生病院  
<sup>10)</sup>医療法人社団 淡路平成会 <sup>11)</sup>東浦平成病院 <sup>12)</sup>医療法人社団 南淡千通会 <sup>13)</sup>神戸平成病院  
<sup>14)</sup>医療法人 横浜平成会 <sup>15)</sup>平成横浜病院 <sup>16)</sup>医療法人 平成博愛会 <sup>17)</sup>博愛記念病院  
細川 雄平<sup>1)</sup>, 津江 尚幸<sup>2)</sup>, 佐藤 翔<sup>3)</sup>, 佐々木恭介<sup>4)</sup>, 藤井 信濃<sup>5)</sup>, 田山 大介<sup>5)</sup>,  
島田 典子<sup>6)</sup>, 藤澤さほり<sup>7)</sup>, 松田瑛里奈<sup>8)</sup>, 田中 愛実<sup>9)</sup>, 池村 健<sup>9)</sup>, 武久 洋三<sup>10)</sup>

Eight years since the launch of a urinary rehabilitation team:  
The clinical effectiveness of proactive urinary rehabilitation, and future prospects

Yuuhei Hosokawa<sup>1)</sup>, Naoyuki Tsue<sup>2)</sup>, Syou Satou<sup>3)</sup>, Kyousuke Sasaki<sup>4)</sup>, Shinano Fujii<sup>5)</sup>, Tayama Daisuke<sup>5)</sup>, Noriko Shimada<sup>6)</sup>,  
Sahori Fujisawa<sup>7)</sup>, Erina Mathuda<sup>8)</sup>, Manami Tanaka<sup>8)</sup>, Takeshi Ikemura<sup>9)</sup>, Youzou Takehisa<sup>9)</sup>  
<sup>10)</sup>Social Welfare Corporation Kansai Center Welfare Society Heisei Rehabilitation College, Hyogo, Japan  
<sup>11)</sup>Medical Corporation Yamaguchi Heisei Association Yamaguchi Heisei Hospital, Yamaguchi, Japan  
<sup>12)</sup>Medical Corporation Heisei Hakuai Association Inzai Synthesis Hospital, Chiba, Japan  
<sup>13)</sup>Medical Corporation Association Yamato Association Tamagawa Hospital, Tokyo, Japan  
<sup>14)</sup>Medical Corporation Association Nishinomiya Kaisei Hospital, Hyogo, Japan  
<sup>15)</sup>Medical Corporation Association Awahei Association Higashiura Heisei Hospital, Hyogo, Japan  
<sup>16)</sup>Medical Corporation Nandan Chihyokai Kobe Heisei Hospital, Hyogo, Japan  
<sup>17)</sup>Medical Corporation Yokohama Heiseikai Heisei Yokohama Hospital, Kanagawa, Japan  
<sup>18)</sup>Medical Corporation Heisei Hakuai Association Hakuai Memorial Hospital, Tokushima, Japan

## 要旨:

我々は、リハビリの原点は歩行自立よりもまず「口から食べて、トイレに行って排泄する。」といった人間としての尊厳をまずは優先的に改善させることを重要視しており、8年前に平成医療福祉グループ（以下、HMW）の関連病院の理学療法士、作業療法士と排泄リハビリテーションチームを発足し、関連病院で排尿リハに従事する療法士が統一したアセスメントや排尿リハが可能となるようにマニュアル作成や排泄ケアアドバイザーによる臨床的サポート等を行ってきた。その中で HMW の関連病院と共同し、積極的な排尿リハビリテーションを行った結果、通常のリハビリテーションよりも下衣形態および FIM を改善する可能性が示唆された。その改善効果は、廃用症候群および運動器疾患、機能性尿失禁パターン症例において特に有効である可能性が示された。ただし、脳血管疾患症例においては有意な改善を認めず、運動麻痺や高次脳機能障害による意識的な骨盤底筋訓練が困難であったことから、尿失禁タイプ別だけではなく基礎疾患も併せた多様性のある介入や工夫、そして、多職種連携における役割の明確化が必要であると考えた。また、各医療機関の療法士の配置不足に付随して、療法士は卒前教育において排泄ケアにおける一連のプロセスを学習する機会がない他、指定の研修会を受講する義務がなく、関連病院に所属する多くの療法士より不安の声が上がっていた。こうした現状より、我々はさらなる排尿リハビリテーションの臨床教育の強化を図るべくマニュアルの見直しやラウンドの実施、排泄ケアコーディネーターの育成・支援、言語聴覚士の参画やリハビリテーション以外の生活支援や栄養面についても検討している。本稿では、我々が取り組んできた排尿リハビリテーションの経過とともに療法士の排尿リハビリテーションにおける現状と課題、今後の展望について報告したい。

**キーワード：積極的な排尿リハビリテーション、臨床的効果、療法士**